

## 自立をふまえて（どの子ども共に生き，共に育つ）

～ 一人ひとりの実態をふまえた支援と指導のあり方 ～

### I 主題設定の理由

特別支援学級数は年々増えている。一学級の在籍状況は学校規模に関わらず一人学級から多学年大人数と様々であり，障害種別も多様である。通級指導教室も昨年度から山梨市の中学校に設置がされ，東山全体で4教室となった。通常学級においても支援や配慮を必要とする子どもが多くおり，一人一人の子どもの実態は様々である。このため，支援学級・通級指導教室・通常学級の担任・担当が抱える課題は多様化しており，子どもたち一人一人の障害の状況や発達段階，その特性に合わせた支援・指導は，共通した研究課題である。

昨年度の春季教育研究集会において研究テーマは「どの子ども共に生き，共に育つ」でサブテーマは「ありのままを認め，『共に生き，共に育つ』ことをめざして」に決定した。

具体的な研究内容としては，

◎各地区で一人一実践など，全員が主体的に研究に参加し，組織研究にあたる。

◎レポート内に子どもたちの変容を記載し，成果と課題を明らかにする。

◎具体的な内容〔インクルーシブ教育を意識した実践〕

などの内容を研究していくことが確認されている。

本年度はコロナ禍で開催日数が少なくなったが，授業実践・学習会・情報交換などを通して，児童生徒の理解と支援方法などを模索し，児童生徒一人ひとりの実態に合わせて，自立をめざした支援内容，指導の方法に迫るべく本主題を設定した。

### II 研究の内容

1 講師を招いて学習会を行い，それぞれの学習内容について理解を深めた。

8月 31日 「特別支援教育の教育課程と評価について」

講師 山梨市立日下部小学校 教頭 岡 輝彦先生

2 研究テーマに基づいて，実践発表と研究授業を行った。

9月 16日 実践報告「数直線の指導法」 井尻小学校 小林由紀子  
指導案検討 塩山南小学校 塚田志小美

2月 3日 研究授業 通級指導教室 自立活動「冬の言葉を学ぼう」

授業者 塚田 志小美教諭 (塩山南小)

指導・助言者 岡 正人 校長先生 (玉宮小)

岡 輝彦 教頭先生 (日下部小)

3 成果と課題について話し合い，次年度に向けて見通しをもった。

2月 10日 今年度の成果と課題 来年度へ向けて

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

##### 【授業について】

- ・統一授業研において、今年度のテーマである「一人一人の実態を踏まえた支援と指導のあり方」を学ぶことができて有意義な研究討議ができた。
- ・一本の授業について全体でじっくり検討することができて良かった。
- ・今年はコロナ禍で少ない回数であったが、よい研究授業をつくることができた。
- ・通級指導教室について、内容や指導方法など、知ることができた。
- ・ビデオという新しい試みで、通級の授業を観察できたことはとても成果があった。
- ・担任一人と児童一人の授業であったが、授業の様子をビデオ撮影したことで、児童にも負担をかけることなく、みんなで授業の様子を見ることができた。
- ・ビデオによる授業観察でも、十分授業の様子が分かり、授業研究をすることができた。今後も状況に応じて活用していけたら良いと思う。

##### 【学習会・実践発表ほか】

- ・学習会では「特別支援学級の教育課程と評価」について、改めて確認することができた。とても価値のある学習会であった。
- ・毎回専門的知識を有する岡教頭先生から指導助言をしていただく事ができ、研修を受けるほどの価値のある学習会と研究会になった。
- ・毎回の部会において、活発な意見がたくさん出てきた。それについて、指導助言者の先生方からさらに専門的な指導助言をいただくことができて大変勉強になった。
- ・学習会や実践報告情報交換などを通して、児童一人一人に合った支援方法を考えることができた。

##### 【その他】

- ・感染症への対策を考えながら研究会を継続できたことが良かった。
- ・部会のテーマである「自立をふまえて」について、各回で研究を進めることができた。
- ・年間計画に沿って、短時間ではあるが効率的に学ぶことができた。（研究授業，学習会，実践報告，毎回の指導助言）
- ・学習会や情報交換などを通して、児童一人一人に合った支援方法を考え、学びを深めることができた。

#### 2 課題

- ・研究した成果をいろいろなタイプの子ども達に広げていくこと。多くの先生方と語り合うことの中で見つけられることがたくさんあると思うので、継続してこの部会にいる必要性を改めて感じた。
- ・新年度は日下部小の研究もまとまったと聞いたので、それを環流していただくことも視野に入れたい。
- ・自立活動の指導を充実させていきたい。そのために指導例や教材など通級担当教室（小中）の先生方に紹介してもらえたらと思う。
- ・部会で話し合ったことを、各学級で生かしていけるように深めていきたい。
- ・特別支援教育の研究会はメンバーが固定化してしまいがちである。普通学級の中にも特別な支援を有する児童生徒が増えている中、普通学級の担任の先生達にも加入を勧め、学習してもらいたい。
- ・学習会や情報交換の場（コロナ渦では日数の確保は難しいでしょうが）今年度岡先生を講師に学習会を開催していただき、とても勉強になったので、継続していきたい。

（部長 小林由紀子）